



とよしん

海外貿易投資ニュース

とよしん ER

第47号

発行日: 2015.4.15

課題山積だが新たなビジネスチャンスも - 農業ミッションを派遣(1) - (ミャンマー)

農業はミャンマーの主要産業で、人口の約6割が農業分野に従事し、GDPの約3割を占めている。政府は貧困削減を目標に、農業分野の機械化・近代化による生産性向上を目指しており、日本の農業機械・資材メーカーや商社などにとっても新たなビジネスチャンスとして注目が集まる。ジェトロが2月にヤンゴンなどに派遣した農業ミッションの視察内容や商談の様子などを2回に分けて報告する。

< 中央平原の農業地域を視察 >

ジェトロは、日本企業による農業機械・資材の市場開拓、農産物の調達・委託栽培、ミャンマー企業による農業の機械化・近代化による生産性向上・輸出促進を支援するため、農業、食品加工機械、農業資材、商社(食品、中古農機)など、20人からなるミッションを2月にミャンマーに派遣した。3回目となる同国への農業分野のミッションは過去最大規模となり、同国への関心の高さがうかがえた。

ミッション団はヤンゴン、マンダレー、ピンウールインを訪問した。マンダレー、ピンウールインはミャンマーの中央平原にあり、主に畑作によるマメ、ゴマ、綿花などの生産や灌漑による稲作が盛んだ。同地域はエヤワディデルタ地帯でのコメ生産、シャン州を中心とする高地地帯での野菜・果物生産と並び、ミャンマーでも有数の農業地域となっている。

マンダレー、ピンウールインでは、農機工場、農機レンタルサービス会社、農作物の卸売市場、食品加工工場などを視察した。同地域の一般的な農家では、栽培する種の品種が古く生産性が向上しないため、

高付加価値な作物を栽培し収益性を向上させたいとする傾向が強い。また、タイ企業の契約農家となっている農家も多い。タイ企業は種や農薬、肥料などを提供し、収穫時の買い取りも保障しているため、農家にとっては有益な仕組みとなっている。ただし、同地域の多くの農家は経営基盤が脆弱(ぜいじゃく)なため、農家向け融資制度の整備など、ミャンマーの農業発展のためには多くの課題があるようだ。

ヤンゴンではミャンマー企業との商談会を行い、小売店や農機販売店などを訪問した。現地企業との商談会や交流会では、野菜、果物、唐辛子、ターメリック、茶、ラペットウ(茶葉の漬物)、漢方薬原材料などの分野で、将来的なビジネス展開が期待できるような商談を行う企業も多くあった。

参加企業からは、「ミャンマーでの新規ビジネス構築に向け活動を継続していきたい」「想像以上の収穫があった。グローバルな視点で自社の活動を考える良い機会となった」など、前向きな感想が聞かれた。

ミャンマーの農業は、インフラの未整備や技術革新の遅れなど、改善の余地が大きい。しかし、経済発展の上で、農業分野の近代化を図り競争力を高めていくことは必須で、政府もそれを認識している。



ミッション団による農園視察の様子

(出所:ジェトロ通商弘報2015年3月30日 5514f9e80a410「課題山積だが新たなビジネスチャンスも - 農業ミッションを派遣(1) - (ミャンマー)」)

日本製農機は価格の高さとメンテナンスに課題 - 農業ミッションを派遣(2) - (ミャンマー)

ジェットロが派遣した農業・食品加工機械・資材製造、農業分野の企業、商社(総合、食品、中古農機)などからなるミッション報告の後編。

<タイや中国製が広く流通>

現地でのヒアリングによると、農村部では国外やヤンゴンなどの都市部への出稼ぎ労働者の増加のため、農業従事者が徐々に減り始めており人手不足が生じている。そのため、収穫のタイミングを逃してしまうケースも発生しているようだ。限られた期間に効率良く収穫できるよう、多くの農家が機械化の必要性に迫られている。

農家も日本製農業機械の品質の高さは認識しており、多くが購入に関心を示している。しかし、購入に当たっては販売価格の高さが第1のネックになっている。購入方法としては、ミャンマーでは現金一括払いが多いが、分割払いで購入するケースもある。今後こうした分割払いが一般的になれば、購入を検討する農家も増えてくるかもしれない。

また、農村地域の周辺には日本製品を取り扱う代理店が少ない。逆にタイ製や中国製の農機や部品を多く取りそろえている店が多いため、農家も長期的なメンテナンスを考慮し、日本製の購入に二の足を踏むことが多いという。農家によると、中国製よりタイ製の人気が高いようだ。中国製が、値段は安いエンジンをはじめ不具合の発生率が高いのに比べ、タイ製は耐久性に優れ、3年程度修理が必要ない製品もあるとのこと、品質に対して一定の評価を得ているようだ。

中古品の需要も高い。中古でも物が良ければ日本製を購入したいという農家も一定数存在する。ただし、中古機械の場合は新品と違ってアフターサービスを受ける機会が乏しく、交換部品も手に入らないことが多いため、農家も使い捨てくらいに思っているようだ。

機種としては、土を耕す作業が年間を通じて複数回あるため、トラクター関連のニーズが高い。農家へのヒアリングによると、購入を希望する農機としては、種まき機、雑木を選別する機械、ジャガイモを掘り出す機械、稲刈り機などがあるようだ。稲刈りに人を雇う場合、人手不足の問題もありコスト高となるようだ。

参加企業からは、「小型農機を製造するメーカーが入る余地があり、十分な可能性を感じる」「今回のミッションで得た人脈を通じて引き続き商品提供を検討したい」といった声が聞かれた。農機の購入方法、アフターサービスを含め日本企業にとって課題は多いが、農業分野でチャンスをつかむ余地もあるといえそうだ。

(出所:ジェットロ通商弘報2015年3月31日 5515021a53408「日本製農機は価格の高さとメンテナンスに課題 - 農業ミッションを派遣(2) - (ミャンマー)」)

！！外貨両替は弊庫へ 米ドルは全店で、17通貨は本店で取扱中！！

次のセミナー等をご案内させていただきました。

セミナー等名称	開催地	主催者
グレーター・ナゴヤ・タイ商談会	名古屋	グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会

心と心のおつきあい
豊田信用金庫

国際業務部

〒471-8601
愛知県豊田市元城町1-48

電話 0565 - 36 - 1381

FAX 0565 - 36 - 1213

URL <http://www.toyoshin.co.jp>